

四季の風



■発行責任者／病院長 曾根 孝仁
■編集／大垣市民病院広報誌編集委員会

広報 第37号
●発行 平成24年1月1日●

理 念

患者中心の医療 良質な医療の提供

大垣市民病院臨床研修の理念

- ◎社会人としての規律を守り、医師として思いやりのある人格を涵養する。
- ◎プライマリ・ケアに必要な幅広い診療能力を修得する。
- ◎チーム医療の一員として、安全・安心・満足の得られる患者中心の良質な全人的医療を実践する。

当院は、臨床研修病院に指定されており、次世代の医師育成のため、上級医の指導のもと研修医の臨床研修及び学生の臨床実習を行っています。



(新救命救急センター)

新救命救急センター 完成にあたって

病院長 曾根 孝仁

平成24年1月に長年の悲願であった新救命救急センターがオープンします。従来のセンターは、平成6年に国の整備基準が人口100万人に1か所から30万人以上の二次医療圏に1か所と変更され、当時改築中であった新外来棟の設計を急遽変更することにより作られました。そのために、当初は救急外来のみが予定されていたところに病室も入ることとなり、窮屈な配置となっていました。その悩みからようやく解放されます。

その間に県内はもとより全国的にも屈指の診療実績をあげ、平成22年度の救急車受入れ台数は年間1万件に迫っています。

新救命救急センターは別棟となり、1階の外來部門だけでも現在より広いスペースが確保されています。また、より迅速に救急対応できるよう320列MDC T(X線CT装置)を始めとする最新機器を同一フロアに設置しました。病室部分は2階に分離し療養環境は格段と改善されています。3階部分には当直室、災害備蓄倉庫、中毒薬物分析室、消防を始めとする救急スタッフ研修室等が設けられています。ハードとしては10年あるいは20年先を見据えたものとなっており、人的資源へのマグネット効果を期待しています。診療体制としては従来の如く1次から3次まですべてを受け入れます。病気の重症

度が不明な大半の患者さんにとってその選別は、不可能であり受診制限をすべきではないと考えるからです。

しかしながら、限られた医療資源の中の運営となり、待ち時間の短縮等が直ちに解消されるわけではありません。4月からは常勤あるいは大学医局からの非常勤救急専門医の若干の増員を予定しています。しかしながら特にこの分野における医師不足は深刻であり、短期間での充実は望めません。また看護師不足も同様です。

北米型ER(救命救急室)の如く十分な人的資源のもと24時間・365日すべての独歩来院患者をトリアージナースが対応し、緊急性があれば救急車来院の患者同様に救急専門医の初療が受けられるような体制にすることが目標です。勿論、専門性が求められる昨今、救急診療は救急専門医だけでなく病院全体の機能を総動員して行うべきものです。ハードの一新とともに内容もより充実したものと進化させるためには、今まで以上に各診療科の協力と次世代を担う人材の育成が必要です。

救急医療の充実には地域の願いであり、財産であります。関係各位のご協力と地域住民のご理解をお願いしましてご挨拶にかえさせていただきます。

医療機器最前線

最新鋭X線CT装置

「320列エリア

ディテクタCT」の紹介



医療技術部
診療検査科 中央放射線室

平成24年1月から最新鋭の320列エリアディテクタCT装置が西濃地域で初めて導入されます。

この装置は東芝メディカル製「Aquilion ONE」(図1)で、最大の特長は検出器が体軸方向に0.5mm×320列(総幅160mm)あり、現在多くの大病院で使用されている64列マルチスライスCT装置検出器の4～5倍の幅があります(図2)。従来は、検査するために検出器を回転しながら寝台を移動させ、得られたデータをつなぎ合わせて画像を作っていました。本装置では検出器幅が広いので、検査範囲が160mm以下である脳や心臓などでは全範囲を一回転(0.35秒)で撮影でき(図3)、X線被ばくも大幅に低減できます。また、160mmの範囲を連続にデータ収集することで、脳や心臓などでの血液の流れの様子、関節の動き、呼吸による肺の膨縮や誤嚥などの嚥下障害を三次元(3D)で評価可能です。一方、広範囲の検査には従来法で撮影しますが、320列検出器の中央部160列を使用して、64列マルチスライスCT装置の約1/2の短時間で撮影できます(図4)。

心臓

心臓の血管の検査では、心臓全体を一回転で検査するため、心拍によるズレがない鮮明な画像が得られます。また、心臓の動きを最初から最後まで連続してデータ収集することで、壁の厚さの変化や動き、拍出血液量など心臓の機能診断が可能です。さらに、心臓の動きが少ない時を狙って撮影するため、X線被ばく量を通常に比べ大幅に減らすことができます。

頭部

頭部においては、連続データの収集により、造影剤が動脈や静脈などを流れている時の画像を得ることができ、それらの3D像の作成も可能です。また、頭部での最大の利点は、全脳の血流状態を検査することができ、脳梗塞の早期診断に威力を発揮します。

乳幼児

乳幼児のCT検査では、撮影時に静止が必要であるため、麻酔処置を行って撮影することが通例でしたが、本装置は一回転0.35秒で撮影できるため鎮静の必要がなく、しかもX線被ばくも大幅に低減できるため、乳幼児の検査にきわめて有効です。

救急検査

救急検査では、静止の維持や呼吸停止が不可能な事が多くありますが、160列を用いた短時間撮影により、胸部から腹部が約3.8秒で検査可能で、素早く撮影を終えて次の処置に移行することができます。また、その検査データから必要に応じて任意の断面像の作成や、3D像の作成も可能です。

「小児夜間
急患医療事業」
について



当院の救命救急センターでは、多くの患者さんが夜間や休日なども受診されています。

平成16年4月に、大垣市が医師会の協力により、当院の救命救急センター内に「小児夜間救急室」を開設しました。

この事業が始まった経緯は、救命救急医療を担当する医療機関において、小児科医師が不足し、担当医の負担が増大したことから、地域医療機関の協力を得て始まりました。

救命救急診療は、1月から新しく完成する新救命救急センターで行いますが、小児夜間救急室につきましても、新救命救急センター内で診療を行います。

そのほか、救急車での搬送や紹介状を持参された患者さんなどは、当院の当直医師が診察いたします。

場所 救命救急センター内



診療日 木・土・日曜日

(ただし祝日及び年末年始を除く)

診療時間 18時から21時

担当医 医師会に所属する小児科医等

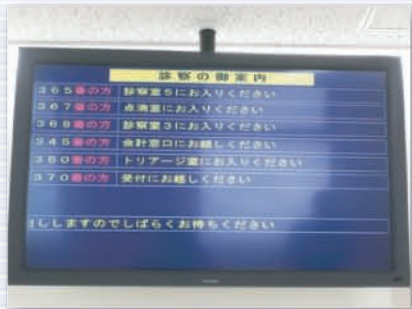
▼新救命救急センターに来院▼

受付

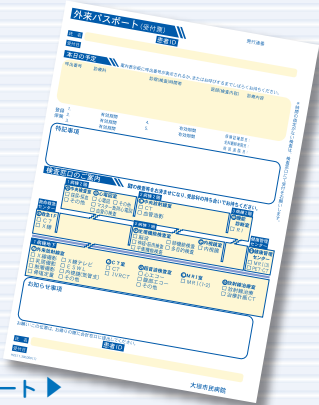
問診票を記入し、診察券と保険証と一緒に受付にご提示ください。
受付が済みましたら、外来パスポートをお受け取りください。

待合

外来パスポートの呼出番号で案内表示板からご案内しますので、
お待ちください。
※土・日曜日の午後5時15分から9時までは、傷病の緊急性に応じて治療の
優先順位を決めるトリアージを行います。



▲案内表示板



外来パスポート▶

診察室

案内表示板で患者さんの番号が表示されましたら、該当する診察
室にお入りください。

会計窓口

診察が終わりましたら、外来パスポートを会計に提示し、待合で
お待ちください。

時間外
処方箋
窓口

(お薬がある場合)
1病棟1階の時間外
処方箋窓口にて、
お薬をお受け取り
ください。

(お薬がない場合)

ご 帰 宅

新救命救急センターの平成24年1月18日(水)からの稼働に伴い、救急外来での流れについて変更箇所をご案内します。

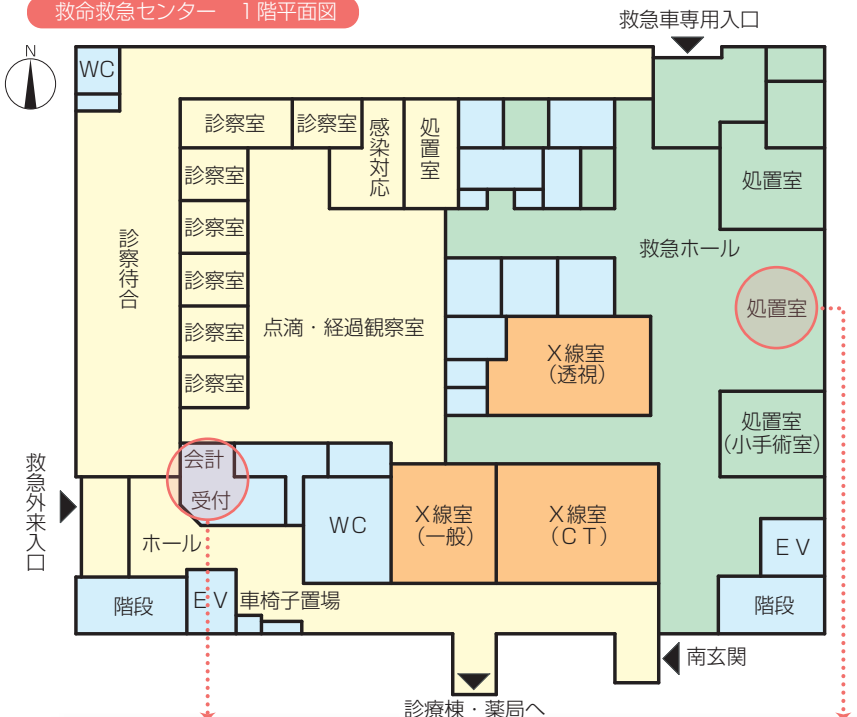
①受付が済みしたら、外来パスポートをお渡しします。

②救急待合で、案内表示板でお呼びするまでお待ちください。
ご協力をお願いいたします。



新救命救急センターでの
診察の受け方

救命救急センター 1階平面図



特色

- ・ 既設の救命救急センターの約4倍の床面積となる。
- ・ 病室15床を30床に増床する。
- ・ 耐震基準の1.5倍の耐震強度を確保する。
- ・ 太陽光発電設備を設置する。

建物概要

- ①構造・規模 鉄筋コンクリート造 3階建て
延床面積 3,933.49㎡
- ②主要室
- 【1階】 診察室、処置室、X線撮影室、CT撮影室等
 - 【2階】 病床30床
 - 【3階】 スタッフルーム、防災備蓄倉庫等

新救命救急センターの紹介

薬剤部Vol.35

とっておきの
薬
のはなし

III 薬効別シリーズ III

”糖尿病”の薬
(内服薬)について
知ろう

血糖は、膵臓から分泌されるインスリン・ホルモンで調節されています。糖尿病は、このインスリンの量が不足したり働きが悪くなることで血糖値が上がってしまう病気です。そのまま放置すると、いろいろな合併症を引き起こします。

糖尿病は、1型糖尿病(インスリン依存型)と2型糖尿病(インスリン非依存型)に大きく分けられます。1型は、体質的要因とウイルス感染などが重なり発症します。一方、中高年に多い2型糖尿病は、もともとの体質に、食べすぎや運動不足、肥満などが加わり発症します。インスリンが出ない1型糖尿病では、インスリン注射が必須です。

経口血糖降下薬
(SU剤・スルフォニル尿素薬)

アマリール、グリミクロン、ダオニール
SU薬は、古くからよく使われている血糖降下薬です。膵臓のβ細胞を刺激してインスリンの分泌を促進します(インスリン分泌刺激薬)。過剰に投与するとインスリンの過剰分泌を招き低血糖を来すことがあり、注意が必要です。また、インスリン増加による血糖の低下のため食欲が亢進し体重が増加する場合もあり、食事・運動療法の厳守が重要です。

速効型食後血糖降下薬

グルファスト、ファステック
速効型のインスリン分泌促進薬です。作用部位・機序はSU薬と同じですが、効き始めるのが素早く、効果が短いという点が異なります。食事の直前に飲むことで、食後の血糖上昇をおさえます。したがって、食後に血糖値が異常に上がり、空腹時血糖値はそれほど高くない場合に向きます。

DPP-4阻害薬

エクア、ジャヌビア、ネシーナ
新しい2型糖尿病治療薬で、GLP-1という腸管ホルモン(インクレチン)を膵臓に作用させることでインスリン分泌を促進します。インクレチンは、血糖値が低いときにはインスリン分泌を促進せず、したがって効きすぎによる低血糖リスクも低くなります。また、体重が増えることも少ないとされています。DPP-4阻害薬は、インクレチンを分解する酵素であるDPP-4を阻害することで、血中のインクレチンレベルを高め、インスリン分泌を増やして血糖値を下げます。SU薬などの糖尿病治療薬と併用することが多いです。



経口血糖降下薬

(BG薬・ビグアナイド薬)

メトグルコ

BG系は、前項のインスリン分泌促進薬とは異なり、膵臓でのインスリン分泌を介することなく血糖降下作用を示します。肝臓からのブドウ糖の放出を妨げ、また、筋肉などへのブドウ糖の取り込みを促進させるなどして、血糖を低下させる薬です。食欲も少し低下する場合があり、肥満した糖尿病患者さんに使われます。

インスリン抵抗性(反応性)改善薬

アクトス

インスリンは十分に分泌しているのに、抵抗性が強いために、働きが鈍いのを改善します。高血糖の持続によりインスリンに対する反応性の悪くなった筋肉、脂肪、肝臓を回復させ、糖の取り込みを改善し血糖を下げます。2型糖尿病で肥満、インスリンに抵抗性があり、高中性脂肪血症を伴う例で効果があります。



食後過血糖改善薬

(αグルコシダーゼ阻害薬)

グルコバイ、セイブル、ベイスン

小腸での多糖類(でんぷん、シヨ糖など)の消化吸収を遅らせることで食後の高血糖を改善します。そのため、食前に服用しないと効果が減弱してしまいます。軽い糖尿病に単独で用いるほか、別の糖尿病治療薬と併用することも多いです。単独では通常低血糖をきたすことはありませんが、SU剤と併用した場合、SU剤による低血糖がおきやすくなる場合があります。この場合、多糖類である砂糖(シヨ糖)を摂取しても低血糖は改善しにくく、単糖類であるブドウ糖を摂取する必要があります。副作用として、腸内のガスが増加しおならが出るようになることがあります。



看護師
(正職員・パート)

随時募集

お知らせ

保育所完備

○応募資格／採用時満55歳までの方
(准看護師は45歳までの方)
正職員：看護師または准看護師免許取得者
パート：看護師または准看護師免許取得者
※正職員は夜勤も数回できる方

○勤務体制／外来または病棟勤務
○選考方法／書類選考および面接*面接日などは後日連絡
○申し込み／看護師または准看護師免許証の写しと履歴書(写真添付)を大垣市民病院庶務課へ郵送またはご持参ください。
○問い合わせ先／〒503-8502 大垣市南瀬町4丁目86番地
大垣市民病院 庶務課
☎0584-81-3341 内線 6132・6133

※応募資格・勤務時間等の詳細な内容については、当院ホームページまたは上記の問い合わせ先までお尋ねください。
採用者には、一定期間研修を行いますので、安心して働くことができます。
たくさんのご応募お待ちしております。



当院は敷地内全面禁煙です。ご理解、ご協力ください。

市民公開講座

演 題：「胃癌のはなし」
消化器内科医長 久永 康宏
日 時：平成24年1月26日(木)
午後2時～午後3時
場 所：管理棟5階 講堂
問い合わせ先：診療検査科 内線 1391




よろず相談センター出前講座

テ マ：「おしえて!確定申告(医療費控除)の手続き方法」
日 時：平成24年1月26日(木)
午後4時～午後5時
テ マ：「“身体障害者手帳”取得後の制度・サービス」
日 時：平成24年3月22日(木)
午後4時～午後5時
場 所：3病棟2階 デイルーム
問い合わせ先：よろず相談センター
内線 6217



2つの講座については、事前の予約は必要がなく、どなたでも無料で参加いただけますので、多数のご参加をお待ちしております。

編集後記

「四季の風」37号をお届けしました。表題のは当院のロゴマークで、大垣市の「大」を図案化した市章をモチーフにしています。次回は4月1日に発行予定です。ご意見、ご要望がございましたらお気軽にお寄せください。

大垣市民病院広報誌編集委員会
〒503-8502 大垣市南瀬町4丁目86番地
TEL (0584) 81-3341 FAX (0584) 75-5715
http://www.omh.ogaki.gifu.jp/
(電話でのお問い合わせについては、お間違いのないようお願いいたします)